



AutoSupport を使用します

StorageGRID

NetApp
October 03, 2025

目次

AutoSupport を使用します	1
AutoSupport とは	1
AutoSupport メッセージに含まれる情報	1
Digital Advisor とは	2
AutoSupport メッセージを送信するためのプロトコル	2
AutoSupport オプション	2
AutoSupport を設定します	2
AutoSupport メッセージのプロトコルを指定します	3
週次 AutoSupport メッセージを無効にします	4
イベントトリガー型 AutoSupport メッセージを無効にします	5
AutoSupport On Demand を有効にする	5
ソフトウェアアップデートのチェックを無効にします	6
AutoSupport デスティネーションを追加します	6
AutoSupport メッセージを手動でトリガーする	8
AutoSupport メッセージのトラブルシューティングを行う	8
週次 AutoSupport メッセージのエラーです	9
ユーザトリガー型またはイベントトリガー型の AutoSupport メッセージのエラーです	10
AutoSupport メッセージのエラーを修正します	10
E シリーズ AutoSupport メッセージを StorageGRID 経由で送信する	10

AutoSupport を使用します

AutoSupport とは

AutoSupport 機能を使用すると、 StorageGRID システムのヘルスメッセージおよびステータスマッセージをテクニカルサポートに送信できます。

AutoSupport を使用すると、問題の特定と解決にかかる時間を大幅に短縮できます。また、システムのストレージニーズを監視し、新しいノードやサイトを追加する必要があるかどうかを判断するための支援も行います。必要に応じて、1つの別の送信先に AutoSupport メッセージを送信するように設定できます。

AutoSupport メッセージに含まれる情報

AutoSupport メッセージには次のような情報が含まれます。

- StorageGRID ソフトウェアのバージョン
- オペレーティングシステムのバージョン
- システムレベルおよび場所レベルの属性情報
- 最新のアラートとアラーム（従来型システム）
- 履歴データを含む、すべてのグリッドタスクの現在のステータス
- 管理ノードデータベースの使用率
- 失われた、または欠落しているオブジェクトの数
- Grid の設定
- NMS エンティティ
- アクティブな ILM ポリシー
- プロビジョニングされたグリッド仕様ファイル
- 診断メトリック

AutoSupport 機能および個々の AutoSupport オプションは、StorageGRID の初回インストール時に有効にするか、あとから有効にすることができます。AutoSupport が有効になっていない場合、Grid Manager ダッシュボードにメッセージが表示されます。このメッセージには、AutoSupport 設定ページへのリンクが含まれています。

The AutoSupport feature is disabled. You should enable AutoSupport to allow StorageGRID to send health and status messages to technical support for proactive monitoring and troubleshooting.

メッセージを閉じても、AutoSupport が無効なままであっても、ブラウザキャッシュがクリアされるまでは再度表示されません。

Digital Advisorとは

Digital Advisorはクラウドベースで、NetAppのインストールベースから得られた予測分析と集合知を活用します。継続的なリスク評価、予測アラート、規範となるガイダンス、自動化されたアクションによって、問題が発生する前に予防できます。これにより、システムの健全性が向上し、システムの可用性が向上します。

デジタルアドバイザのダッシュボードと機能をNetAppサポートサイトで使用する場合は、AutoSupportを有効にする必要があります。

"Digital Advisor ドキュメント"

AutoSupport メッセージを送信するためのプロトコル

AutoSupport メッセージの送信には、次の 3 つのプロトコルのいずれかを選択できます。

- HTTPS
- HTTP
- SMTP

HTTPS または HTTP を使用して AutoSupport メッセージを送信する場合は、管理ノードとテクニカルサポートの間に非透過型プロキシサーバを設定できます。

SMTP を AutoSupport メッセージのプロトコルとして使用する場合は、SMTP メールサーバを設定する必要があります。

AutoSupport オプション

AutoSupport メッセージをテクニカルサポートに送信するには、次のオプションを任意に組み合わせて使用できます。

- * 週単位 * : AutoSupport メッセージを週に 1 回自動的に送信します。デフォルト設定： Enabled （有効）。
- * イベントトリガー型 * : 1 時間ごと、または重大なシステムイベントが発生したときに、AutoSupport メッセージを自動的に送信します。デフォルト設定： Enabled （有効）。
- * On Demand * : StorageGRID システムが AutoSupport メッセージを自動的に送信するようテクニカルサポートから要求できます。これは、問題がアクティブに機能している場合に便利です（HTTPS AutoSupport 転送プロトコルが必要）。デフォルト設定： Disabled （無効）。
- * User-triggered * : AutoSupport メッセージをいつでも手動で送信します。

関連情報

"ネットアップサポート"

AutoSupport を設定します

AutoSupport 機能および個々の AutoSupport オプションは、StorageGRID の初回インストール時に有効にするか、あとから有効にすることができます。

必要なもの

- ・を使用して Grid Manager にサインインします [サポートされている Web ブラウザ](#)。
- ・Root Access 権限またはその他の Grid 設定権限が必要です。
- ・AutoSupport メッセージの送信用に HTTPS プロトコルまたは HTTP プロトコルを使用する場合は、プライマリ管理ノードへのアウトバウンドインターネットアクセスを直接提供するか、プロキシサーバを使用して提供しておきます（インバウンド接続は不要です）。
- ・HTTPS または HTTP プロトコルの使用時にプロキシサーバを使用する場合は、を使用する必要があります [管理プロキシサーバを設定しました](#)。
- ・AutoSupport メッセージのプロトコルとして SMTP を使用する場合は、SMTP メールサーバを設定しておきます。アラームの E メール通知には同じメールサーバ設定（従来のシステム）が使用されます。

AutoSupport メッセージのプロトコルを指定します

AutoSupport メッセージの送信には、次のいずれかのプロトコルを使用できます。

- ・* HTTPS * : これはデフォルトで、新規インストールに推奨される設定です。HTTPS プロトコルはポート 443 を使用します。AutoSupport On Demand 機能を有効にする場合は、HTTPS プロトコルを使用する必要があります。
- ・* HTTP * : このプロトコルは、インターネット経由でデータを送信する際にプロキシサーバーが HTTPS に変換する信頼された環境で使用されない限り、安全ではありません。HTTP プロトコルはポート 80 を使用します。
- ・* SMTP * : AutoSupport メッセージを E メールで送信する場合は、このオプションを使用します。SMTP を AutoSupport メッセージのプロトコルとして使用する場合は、レガシー電子メール設定ページ（* サポート * > * アラーム（レガシー） * > * レガシー電子メール設定 *）で SMTP メールサーバーを設定する必要があります。



StorageGRID 11.2 より前のリリースでは、SMTP が AutoSupport メッセージに使用できる唯一のプロトコルでした。以前のバージョンの StorageGRID をインストールしていた場合は、SMTP がプロトコルとして選択されている可能性があります。

設定したプロトコルは、すべてのタイプの AutoSupport メッセージの送信に使用されます。

手順

1. [* support * > * Tools * > * AutoSupport *] を選択します。

AutoSupport ページが表示され、* 設定 * タブが選択されます。

AutoSupport

The AutoSupport feature enables your StorageGRID system to send periodic and event-driven health and status messages to technical support to allow proactive monitoring and troubleshooting. StorageGRID AutoSupport also enables the use of Active IQ for predictive recommendations.

Settings Results

Protocol Details

Protocol HTTPS HTTP SMTP

NetApp Support Certificate Validation Use NetApp support certificate

AutoSupport Details

Enable Weekly AutoSupport

Enable Event-Triggered AutoSupport

Enable AutoSupport on Demand

Software Updates

Check for software updates

Additional AutoSupport Destination

Enable Additional AutoSupport Destination

Buttons

Save **Send User-Triggered AutoSupport**

2. AutoSupport メッセージの送信に使用するプロトコルを選択します。
3. 「* HTTPS *」を選択した場合、TLS 証明書を使用してネットアップサポートサーバへの接続を保護するかどうかを選択します。
 - * ネットアップサポート証明書を使用 *（デフォルト）：証明書の検証により、AutoSupport メッセージの送信を確実に保護します。ネットアップサポート証明書は、StorageGRID ソフトウェアとともにすでにインストールされています。
 - * 証明書を検証しない *：このオプションは、証明書に一時的な問題があるなど、証明書の検証を使用しない理由が十分な場合にのみ選択してください。
4. [保存 (Save)] を選択します。

毎週、ユーザトリガー型、およびイベントトリガー型のすべてのメッセージが選択したプロトコルを使用して送信されます。

週次 AutoSupport メッセージを無効にします

デフォルトでは、StorageGRID システムは週に 1 回ネットアップサポートに AutoSupport メッセージを送信するように設定されています。

週次 AutoSupport メッセージが送信されるタイミングを確認するには、* AutoSupport * > * Results * タブに移動します。[* Weekly AutoSupport *] セクションで、[次のスケジュール時間] の値を確認します。

AutoSupport

The AutoSupport feature enables your StorageGRID system to send periodic and event-driven health and status messages to technical support to allow proactive monitoring and troubleshooting. StorageGRID AutoSupport also enables the use of Active IQ for predictive recommendations.

Settings Results

Weekly AutoSupport

Next Scheduled Time 2021-09-14 21:10:00 MDT

Most Recent Result Idle (NetApp Support)

Last Successful Time N/A (NetApp Support)

週単位の AutoSupport メッセージの自動送信はいつでも無効にすることができます。

手順

- [* support * > * Tools * > * AutoSupport *] を選択します。
- [週次 AutoSupport を有効にする *] チェックボックスをオフにします。
- [保存 (Save)] を選択します。

イベントトリガー型 AutoSupport メッセージを無効にします

デフォルトでは、StorageGRID システムは、重要なアラートやその他の重大なシステムイベントが発生したときに AutoSupport メッセージをネットアップサポートに送信するように設定されています。

イベントトリガー型 AutoSupport メッセージはいつでも無効にすることができます。



システム全体で E メール通知を停止した場合は、イベントトリガー型 AutoSupport メッセージも生成されません。 (* configuration * > * System * > * Display options * を選択します。次に、[* 通知 (Notification)][すべてを抑制 (Suppress All)]を選択

手順

- [* support * > * Tools * > * AutoSupport *] を選択します。
- [イベントトリガー型 AutoSupport を有効にする *] チェックボックスの選択を解除します。
- [保存 (Save)] を選択します。

AutoSupport On Demand を有効にする

AutoSupport On Demand は、テクニカルサポートが問題解決に積極的に取り組んでいる場合に役立ちます。

デフォルトでは、AutoSupport On Demand は無効になっています。この機能を有効にすると、テクニカルサポートは、StorageGRID システムから AutoSupport メッセージを自動的に送信するよう要求できます。テクニカルサポートは、AutoSupport On Demand クエリのポーリング間隔も設定できます。

テクニカルサポートは、AutoSupport On Demand を有効または無効にすることはできません。

手順

- [* support * > * Tools * > * AutoSupport *] を選択します。
- プロトコルの * HTTPS * を選択します。
- [週次 AutoSupport を有効にする *] チェックボックスをオンにします。
- [オンデマンド AutoSupport を有効にする *] チェックボックスをオンにします。
- [保存 (Save)] を選択します。

AutoSupport On Demand は有効になっており、テクニカルサポートは AutoSupport On Demand 要求を StorageGRID に送信できます。

ソフトウェアアップデートのチェックを無効にします

デフォルトでは、StorageGRID はネットアップに連絡して、ご使用のシステムでソフトウェアの更新が利用可能かどうかを判断します。StorageGRID ホットフィックスまたは新しいバージョンが利用可能な場合は、StorageGRID のアップグレードページに新しいバージョンが表示されます。

必要に応じて、ソフトウェアアップデートのチェックを無効にすることもできます。たとえば、WAN でアクセスできないシステムの場合は、ダウンロードエラーを回避するためにチェックを無効にする必要があります。

手順

- [* support * > * Tools * > * AutoSupport *] を選択します。
- [ソフトウェアアップデートを確認する *] チェックボックスの選択を解除します。
- [保存 (Save)] を選択します。

AutoSupport デスティネーションを追加します

AutoSupport を有効にすると、ヘルスマッセージとステータスマッセージがネットアップサポートに送信されます。すべての AutoSupport メッセージに対して、追加の送信先を 1 つ指定できます。

AutoSupport メッセージの送信に使用されるプロトコルを確認または変更するには、の手順を参照してください [AutoSupport メッセージのプロトコルを指定します](#)。



SMTP プロトコルを使用して、AutoSupport メッセージを追加の送信先に送信することはできません。

手順

- [* support * > * Tools * > * AutoSupport *] を選択します。
- [追加の AutoSupport 送信先を有効にする *] を選択します。

追加の AutoSupport Destination フィールドが表示されます。

Additional AutoSupport Destination

Enable Additional AutoSupport Destination

Hostname

testbed.netapp.com

Port

443

Certificate Validation

Do not verify certificate

You are not using a TLS certificate to secure the connection to the additional AutoSupport destination.

Save

Send User-Triggered AutoSupport

3. 追加の AutoSupport デスティネーションサーバのサーバホスト名または IP アドレスを入力します。



追加の送信先は 1 つだけ入力できます。

4. 追加の AutoSupport デスティネーションサーバへの接続に使用するポートを入力します（デフォルトは、HTTP の場合はポート 80、HTTPS の場合はポート 443）。
5. 証明書の検証とともに AutoSupport メッセージを送信するには、[証明書の検証 *] ドロップダウンで [カスタム CA バンドルを使用する *] を選択します。次に、次のいずれかを実行します。
 - 編集ツールを使用して、PEM でエンコードされた各 CA 証明書ファイルのすべての内容を、証明書チエーンの順序で連結された * CA Bundle* フィールドにコピーして貼り付けます。選択には '--BEGIN CERTIFICATE- と ---END CERTIFICATE- ---- を含める必要があります

Additional AutoSupport Destination

Enable Additional AutoSupport Destination

Hostname

testbed.netapp.com

Port

443

Certificate Validation

Use custom CA bundle

CA Bundle

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz123456780ABCDEFHijkl
123456/7890ABCDEFabcdefghijklABCD
-----END CERTIFICATE-----
```

Browse

- [* 参照 *] を選択し、証明書が含まれているファイルに移動し、[* 開く *] を選択してファイルをアップロードします。証明書の検証により、AutoSupport メッセージの送信を安全に行うことができます。

6. 証明書の検証を行わずに AutoSupport メッセージを送信するには、[証明書の検証 *] ドロップダウンで [証明書を検証しない *] を選択します。

このオプションは、証明書の検証を使用しない理由がある場合（証明書に一時的な問題がある場合など）にのみ選択してください。

「 You are not using a TLS certificate to secure connection to the additional AutoSupport destination. 」 というメッセージが表示されます。

7. [保存（Save）] を選択します。

それ以降に送信される毎週、イベントトリガー型、およびユーザトリガー型の AutoSupport メッセージは、すべて追加の送信先に送信されます。

AutoSupport メッセージを手動でトリガーする

テクニカルサポートによる StorageGRID システムの問題のトラブルシューティングを支援するために、AutoSupport メッセージの送信を手動でトリガーできます。

必要なもの

- を使用して Grid Manager にサインインします [サポートされている Web ブラウザ](#)。
- Root Access 権限またはその他の Grid 設定権限が必要です。

手順

1. [* support * > * Tools * > * AutoSupport *] を選択します。

AutoSupport ページが表示され、* 設定 * タブが選択されます。

2. [ユーザー起動 AutoSupport 送信] を選択します。

StorageGRID は、テクニカルサポートに AutoSupport メッセージを送信しようとします。試行に成功した場合は、[結果（Results）] タブの [最新結果（Recent Result）]* 値と [前回成功した時間（Last Successful Time）]* 値が更新されます。問題がある場合、「最新の結果 *」の値が「失敗」に更新され、StorageGRID は AutoSupport メッセージの送信を再試行しません。



ユーザトリガー型 AutoSupport メッセージを送信したあと、1 分後にブラウザの AutoSupport ページを更新して最新の結果にアクセスします。

AutoSupport メッセージのトラブルシューティングを行う

AutoSupport メッセージの送信が失敗すると、StorageGRID システムは AutoSupport メッセージのタイプに応じて異なる処理を行います。AutoSupport メッセージのステータスを確認するには、* support * > * Tools * > * AutoSupport * > * Results * を選択します。



E メール通知をシステム全体で停止した場合は、イベントトリガー型 AutoSupport メッセージが生成されなくなります。(* configuration * > * System * > * Display options * を選択します。次に、[* 通知 (Notification)] [すべてを抑制 (Suppress All)]を選択

AutoSupport メッセージの送信に失敗すると、AutoSupport ページの * Results * タブに「Failed」と表示されます。

AutoSupport

The AutoSupport feature enables your StorageGRID system to send periodic and event-driven health and status messages to technical support to allow proactive monitoring and troubleshooting. StorageGRID AutoSupport also enables the use of Active IQ for predictive recommendations.

The screenshot shows the AutoSupport interface with the 'Results' tab highlighted by a yellow border. Below the tabs, there are three sections: 'Weekly AutoSupport', 'Event-Triggered AutoSupport', and 'User-Triggered AutoSupport'. Each section contains status information such as 'Next Scheduled Time', 'Most Recent Result', and 'Last Successful Time'. In the 'User-Triggered AutoSupport' section, the 'Most Recent Result' entry is 'Failed (NetApp Support)' and is also highlighted with a yellow border. The 'AutoSupport On Demand' section is shown below, indicating that messages are only sent to NetApp Support.

Section	Parameter	Value
Weekly AutoSupport	Next Scheduled Time	2020-12-11 23:30:00 EST
	Most Recent Result	Idle (NetApp Support)
	Last Successful Time	N/A (NetApp Support)
Event-Triggered AutoSupport	Most Recent Result	N/A (NetApp Support)
	Last Successful Time	N/A (NetApp Support)
	User-Triggered AutoSupport	Most Recent Result
Last Successful Time		N/A (NetApp Support)
AutoSupport On Demand		AutoSupport On Demand messages are only sent to NetApp Support.

週次 AutoSupport メッセージのエラーです

週単位の AutoSupport メッセージの送信に失敗した場合、StorageGRID システムは次の処理を行います。

- 最新の結果属性を更新して再試行します。
- 4 分間隔で 15 回、1 時間 AutoSupport メッセージの再送信を試みます。
- 送信エラーが 1 時間発生した後、最新の結果属性を失敗に更新します。

4. AutoSupport メッセージの送信を、次にスケジュールされた時刻に再試行します。
5. NMS サービスが利用できないことが原因でメッセージの送信が失敗した場合、および 7 日以内にメッセージが送信された場合は、AutoSupport の定期送信スケジュールを維持します。
6. 7 日以上メッセージが送信されていない場合は、NMS サービスが使用可能な状態に戻った時点で AutoSupport メッセージが送信されます。

ユーザトリガー型またはイベントトリガー型の **AutoSupport** メッセージのエラーです

ユーザトリガー型またはイベントトリガー型の AutoSupport メッセージの送信に失敗した場合、StorageGRID システムは次の処理を行います。

1. 既知のエラーの場合は、エラーメッセージが表示されます。たとえば 'ユーザーが正しい電子メール設定を指定せずに SMTP プロトコルを選択した場合' メール・サーバ・ページの設定が正しくないため 'SMTP プロトコルを使用して AutoSupport メッセージを送信できません' というエラーが表示されます
2. メッセージの再送信は試行されません。
3. エラーを 'nms.log' に記録します

プロトコルとして SMTP が選択されている場合に問題が発生した場合は、StorageGRID システムの E メールサーバが正しく設定されていることと、E メールサーバが実行されている (* support * > * Alarms (レガシー) * > * > Legacy Email Setup *) ことを確認します。次のエラーメッセージが AutoSupport ページに表示される場合があります。「AutoSupport messages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server.」(SMTP プロトコルを使用して SMTP メッセージを送信することはできません。電子メールサーバページでの設定が正しくないため

E メールサーバの設定方法については、を参照してください [監視とトラブルシューティングの手順](#)。

AutoSupport メッセージのエラーを修正します

プロトコルとして SMTP が選択されている状況で問題が発生した場合は、StorageGRID システムの E メールサーバが正しく設定されていることと、E メールサーバが実行されていることを確認します。次のエラーメッセージが AutoSupport ページに表示される場合があります。「AutoSupport messages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server.」(SMTP プロトコルを使用して SMTP メッセージを送信することはできません。電子メールサーバページでの設定が正しくないため

E シリーズ AutoSupport メッセージを StorageGRID 経由で送信する

E シリーズ SANtricity System Manager AutoSupport メッセージは、ストレージアプライアンスの管理ポートではなく StorageGRID 管理ノードからテクニカルサポートに送信できます。

必要なもの

- を使用して Grid Manager にサインインします [サポートされている Web ブラウザ](#)。
- Storage Appliance Administrator 権限または Root Access 権限が必要です。



Grid Managerを使用してSANtricity System Managerにアクセスするには、SANtricity ファームウェア8.70 (11.7) 以上が必要です。

このタスクについて

E シリーズ AutoSupport メッセージには、ストレージハードウェアの詳細が記載されており、StorageGRID システムから送信される他の AutoSupport メッセージよりも具体的です。

SANtricity System Manager で特殊なプロキシサーバアドレスを設定して、アプライアンスの管理ポートを使用せずに StorageGRID 管理ノード経由で送信される AutoSupport メッセージを原因に設定します。この方法で送信される AutoSupport メッセージは、Grid Manager で設定されている可能性がある優先送信者と管理者のプロキシ設定に基づいています。

Grid Manager で管理プロキシサーバを設定する場合は、を参照してください [管理プロキシを設定します。](#)

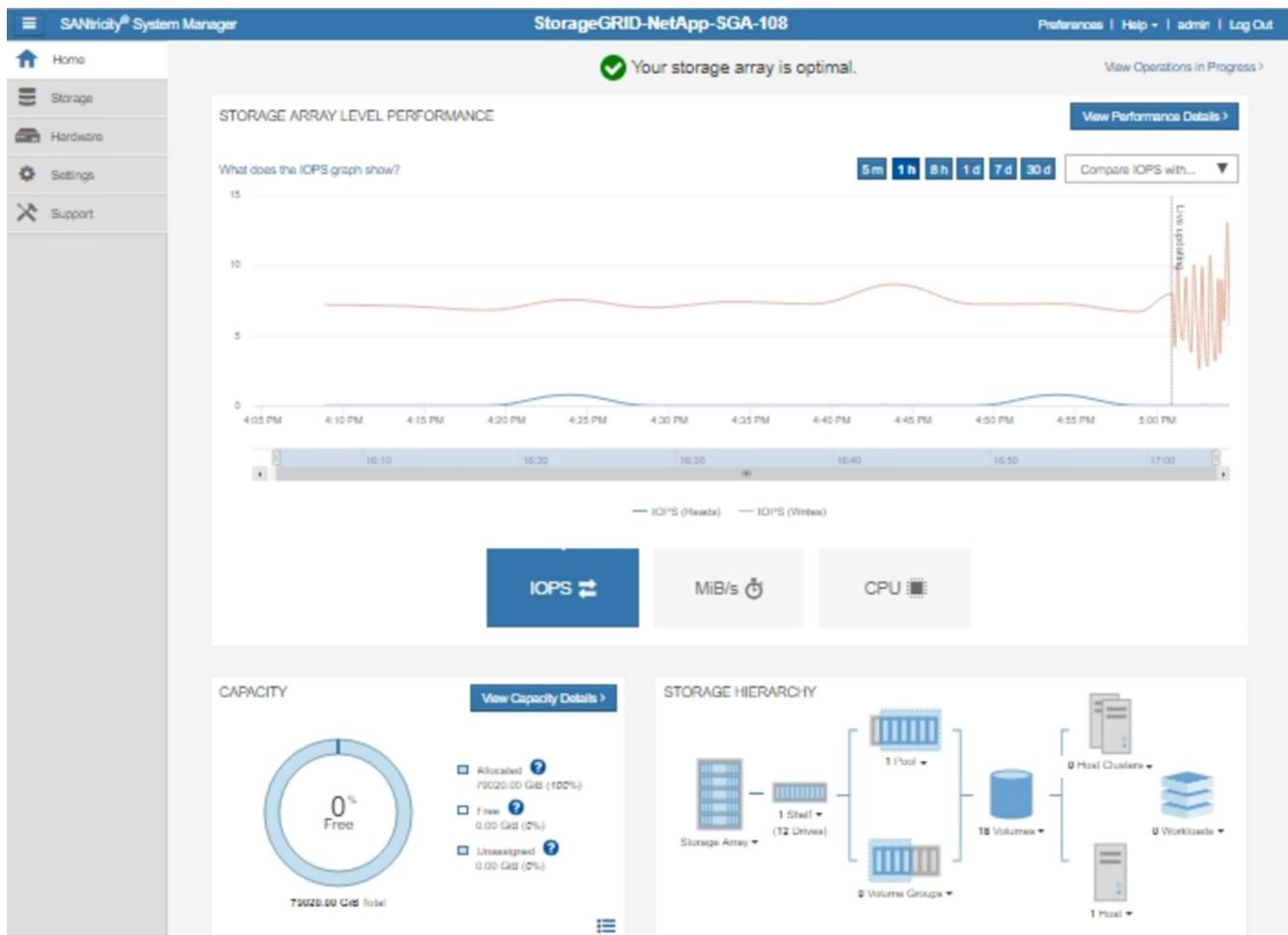


この手順は、E シリーズ AutoSupport メッセージ用に StorageGRID プロキシサーバを設定するためだけに使用します。E シリーズ AutoSupport 構成の詳細については、を参照してください ["NetApp E シリーズおよび SANtricity に関するドキュメント"。](#)

手順

1. Grid Manager で * nodes * を選択します。
2. 左側のノードのリストから、設定するストレージアプライアンスノードを選択します。
3. SANtricity System Manager* を選択します。

SANtricity の System Manager ホームページが表示されます。



4. サポート * > * サポートセンター * > * AutoSupport * を選択します。

AutoSupport operations ページが表示されます。

The screenshot shows the 'AutoSupport operations' page with the following interface elements:

- Technical Support** section:
 - Chassis serial number: 031517000693
 - NetApp My Support
 - US/Canada 888.463.8277
 - Other Contacts
- Navigation tabs:** Support Resources, Diagnostics, AutoSupport (selected).
- AutoSupport status:** Enabled (with a help icon).
- Enable/Disable AutoSupport Features:** Describes AutoSupport proactive monitoring and data dispatching.
- Configure AutoSupport Delivery Method:** (highlighted with a yellow border) Describes connecting via HTTPS, HTTP or Mail (SMTP) server delivery methods.
- Schedule AutoSupport Dispatches:** Describes daily and weekly dispatch schedules.
- Send AutoSupport Dispatch:** Describes automatic sending of system issue dispatches.
- View AutoSupport Log:** Describes the log for status, history, and errors.
- Enable AutoSupport Maintenance Window:** Describes enabling a maintenance window for storage array activities.
- Disable AutoSupport Maintenance Window:** Describes disabling the maintenance window to allow component failure reporting.

5. AutoSupport 配信方法の設定 * を選択します。

AutoSupport 配信方法の設定ページが表示されます。

Configure AutoSupport Delivery Method X

Select AutoSupport dispatch delivery method...

HTTPS

HTTP

Email

HTTPS delivery settings [Show destination address](#)

Connect to support team...

Directly ?

via Proxy server ?

Host address ?

Port number ?

My proxy server requires authentication

via Proxy auto-configuration script (PAC) ?

Save Test Configuration Cancel

6. 配信方法として「* HTTPS *」を選択します。



HTTPS プロトコルを有効にする証明書が事前にインストールされています。

7. プロキシサーバー経由 * を選択します。

8. *Host アドレスの「tunnel-host」を入力します。

「tunnel-host」は、管理ノードを使用して E シリーズ AutoSupport メッセージを送信する特殊アドレスです。

9. ポート番号 * に「10225」と入力します。

「10225」は、アプライアンスの E シリーズ・コントローラから AutoSupport メッセージを受信する StorageGRID プロキシサーバのポート番号です。

10. AutoSupport プロキシサーバーのルーティングと設定をテストするには、* テスト構成 * を選択します。

正しい場合は、緑色のバナーのメッセージ「AutoSupport 設定が確認されました。」が表示されます。

テストに失敗した場合は、赤いバナーが表示されます。StorageGRID の DNS 設定とネットワークを確認し、優先送信者である管理ノードがネットアップサポートサイトに接続できることを確認してから、もう一度テストを実行してください。

11. [保存 (Save)] を選択します。

構成が保存され 'AutoSupport 配信方法が構成されました' という確認メッセージが表示されます

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。